

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132702		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。					
事務事業名	市立伊丹病院電子カルテシステム導入事業		担当部局・課	市立伊丹病院 医事課				
事業内容	昨年度実施したオーダーリングシステム更新に引き続き、診療情報の共有化を図るとともに、診療の質の向上と業務の効率化に資するため、電子カルテシステムを導入する。		事業開始(予定)年度					
			平成17年度					
			事業終了(予定)年度					
			平成18年度					
この事業の 上位施策	これから5 年間のまち づくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	市立伊丹病院の機能整備					
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	カルテを電子化することにより診療情報の共有化を図り、効率的で質の高い安全な医療を提供する環境を整備するため。		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 企業会計 (項) — (事項) — (目) —				
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	322,655千円	財源内訳		事業費	200,000千円	財源内訳	
			国・県補助金等	—			国・県補助金等	—
			市 債	322,600千円			市 債	200,000千円
			その他(使用料等)	—			その他(使用料等)	—
			一般財源(市税等)	55千円			一般財源(市税等)	—
	投入人員	—	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	—	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
	人件費	—	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	—	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	
	経費合計	322,655千円		経費合計	200,000千円			
	活動指標	指標名(単位)	指標なし			計画と実績	年度 区分	H17年度
意味・算式等		—			計画値		—	—
					実績値		—	

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。